

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）
大学院生研究
2004年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院	文学	研究科	地理学	専攻
指導教員	所属・職名		氏名		
	文学研究科・教授		栗田和明 印		
自然・人文の別	自然	・ 人文	個人・共同の別	個人	・ 共同 1名
研究課題	ベトナム、メコンデルタ地域にみる稲種子生産組織の出現とローカルなネットワーク				
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年		氏名		
	文学研究科・地理学専攻 博士後期課程・4年次		大塚直樹 印		
研究組織	在籍研究科・専攻・学年		氏名		
研究期間	2004		年度		
研究経費	200		千円		

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は、ドイモイ政策に代表されるベトナムの改革・開放路線とともに、本格的に出現したメコンデルタ地域の稲種子生産組織の動態的な側面に注目し、そのネットワーク、人々の社会的な実践を、フィールド調査に基づき明らかにすることを目的とした。従来の「緑の革命」をめぐる議論では、高収量品種をはじめとする技術の経済的、社会的な評価が行われた。他方で、このような技術の普及・拡散におけるローカルなネットワークや近代種子の分配をめぐる社会的な関係は、等閑視される傾向にあった。本研究では、このような研究動向を、地域研究の視点から批判的に検討し、メコンデルタの村落社会の動態的な側面を明らかにしようと試みた。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[稲種子生産] [ネットワーク] [地域研究]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は、ドイモイ政策に代表されるベトナムの改革・開放路線とともに、本格的に出現した、メコンデルタ地域の稲種子生産組織の動態的な側面に注目し、そのネットワークおよび人々の社会的な実践を、フィールド調査に基づき明らかにすることを目的とした。

なお、本研究は、申請者が研究分担者として参加した 2003 年度立教 SFR 単独研究科プロジェクト研究(研究代表者: 豊田由貴夫・文学研究科・教授)の問題意識、方法論を援用し、それを特定の課題・特定の地域に焦点をあてた継続的な学究活動であった。

本研究では、上記のような研究目的に関して、より具体的なデータを収集するため、現地(ベトナム)の大学を受け入れ機関として、2004 年 11 月～2005 年 2 月にかけて海外調査を実施した。

海外研究は以下の 4 点を主たる目的として行った。それぞれ①大学・研究機関での聞き取り、②村落調査、③文献・資料の収集、④行政機関での聞き取り、である。特に、フィールド調査では、①高収量品種の分配・普及をめぐる行政機関・研究機関と種子生産組織のネットワーク、②種子生産組織と種子生産農家との間の相互作用、③種子生産農家の社会的な実践、を着眼点とした。

海外研究の結果、以下のような点が明らかとなった。

調査地のあるメコンデルタの一つの省では、主として輸出米の品質向上を目指して、ここ数年来、地元のメコンデルタにある研究機関と地方政府が協力して稲種子生産の技術普及に努めてきた。技術指導のプロセスには、二つの段階がみられた。第一段階では、両機関の指導のもと、2004 年の乾期末までに計 8 回の技術講習会が同省の各行政村で開かれた。その一つの講習会(2001 年 4 月～8 月)では、すでに研究機関との関係をもっていた農家が主体となって、この講習会を期に種子生産組織を設立し、研究機関による直接的な技術指導がその組織の参加者に対して行われた。参加者は、組織の設立者と同じ農業協同組合の加入者、ないし組合員と親戚関係にある農家など、より情報を得やすい立場・地位にある人々であった。したがって、この種子生産組織は必ずしも末端行政機関の管轄に縛られず、その行政区分を越えるネットワークを形成した。結果として、当初、省政府主導という「公共性」をもっていた種子分配政策は、その実施段階において、既存の社会的な関係を利用することにより、選択的・排他的な技術(新品種)の拡散を引き起こした。また、この技術指導に関する資金は、主として省政府の援助により賄われた。さらに講習会終了後、参加した農家は稲種子を省政府の補助金付きで購入する権利を得た。

2004 年の春夏作以降、より多くの講習会を開設するために、第二段階として、その管理・指導が下位行政組織に移行した。下位行政機関では、技術指導員に対する教育を行い、技術普及のための基盤整備に努めた。この省では 2004 年の二作期(夏秋作・秋冬作)だけで、合計 132 回の講習会が開かれた。第二段階では、研究機関による直接的な技術指導は行われず、その指導が各行政機関に所属する技術指導員の手に委ねられた。第二段階に至り、種子生産計画を遂行するための資金不足が顕著になった。このような資金不足は、指導員の質の向上を困難にさせ、結果として、参加農家が新技術に対して多様な解釈を行う要因となった。また、参加する農家の

(様式 2-2 へつづく)

研究成果の概要 つづき

技術取得の意欲を低下させ、講習会からの離脱者を生み出した。第一段階でみられた、種子購入に対する省政府の補助金は、第二段階の講習会に参加した農家には十分に供与されなかった。したがって、第二段階においては、第一段階と比較して、行政側の技術普及に関する拘束力が相対的に弱まった。

このような技術普及のプロセスを要約すると以下ようになる。地方行政政府は開発された稲の新品種を組織的に分配しようと試みた。しかし実際には、その技術が既存の社会的な関係を通じて選択的に普及した。また、ローカルな場所では、その社会的な関係に基礎づけられた新たなネットワークや組織が創出された。種子生産に取り組む農家は、自らの生活戦略として、すでに構築された社会的な関係や政治的な立場を利用しつつ新技術の吸収に努めた。しかし、財政的な援助の削減や指導力の低下などにより、種子生産に対するインセンティブが低下すると、組織からの離脱という形式で技術普及に対する消極的な反発が生じた。

つまり、すでに多くの先行研究が示してきたように、近代化のプロセスは、化学肥料・農薬・近代品種（高収量品種）がパッケージ化された資本多投型で相対的にリスクが大きい農業技術を画一的に普及させた。しかし、画一的にみえるプロセスでは、それぞれの農家のもつローカルなネットワークや社会的・政治的地位、技術を提供する側の財政力・指導力により、その経済的なメリットやリスクが一様ではなく、多様な実践を生み出している。言い換えれば、グローバル化に対するローカルな主体からの反発・習合・受容などの相互交渉が観察される。

最後に、今回の海外研究期間中で入手した文献を列記する。なお、多数あるため、一般流通ルートでは入手できない資料・統計のうち、特に本研究に関連深いもののみを提示する。

< 主要文献リスト一覧 >

Author Unknown (2003)

Đánh Giá Nghèo Có sự Tham Gia của Cộng Đồng tại Đồng Bằng Sông Cửu Long, Nxb. Lao Động - Xã Hội.

Cục Thống kê tỉnh An Giang (2004)

Niên Giám Thống kê Tỉnh An Giang 2003.

Cục Thống kê Tỉnh An Giang (2002)

Dân Số và Nhà Ở Tỉnh An Giang 1999, T.P. Long Xuyên.

Thường trực Huyện Ủy và UBND Huyện Tân Châu (n. d.)

Kỷ Yếu Đại Hội Nông Dân Sản Xuất Giỏi Huyện Tân Châu, Lần thứ 1 năm 2002.

Trung Tâm NC và PT Hệ Thống Cánh Tác ĐBSCL (1995)

Tổng Kết Quá Trình Phát Triển Toàn Diện Kinh Tế - Xã Hội Nông Thôn phía Nam.

UBND T. P. Long Xuyên (2003)

Báo Cáo Hoạt Động Ngành Nông Nghiệp năm 2003 và Kế Hoạch Sản Xuất Nông Nghiệp năm 2004.

UBND Tỉnh An Giang (2003)

An Giang: triển vọng và cơ hội đầu tư.

UBND Tỉnh An Giang (2003)

Địa Chí An Giang: sơ thảo, Lưu Hành Nội Bộ.

UBND Tỉnh An Giang (1998)

Hệ Thống Văn Bản Quy Phạm Phát Luật còn Hiệu Lực: do UBND tỉnh An Giang ban hành từ năm 1976 đến nay.